

大蛇まつりと 大蛇伝説「大里峠」

2026
8/30日

まつりの起こり

第1回が行われた昭和63年当時、関川村では村民全員が楽しむ村全体のまつりがありませんでした。田舎のもつ良さである地域の連帯感を強めるため、村民一丸となって取り組むイベントを実施し、都会にない村の良さを掘り出し、それを肌で感じ、村に生きることの喜びと自信を持ってもらうことをねらいとしました。

人材育成を目的に開塾した「せきかわふるさと塾」の塾生を中心に昭和63年からまつりは実施されています。

まつりの由来

関川村には「大里峠」という伝説があります。この伝説は一説によれば、大水害を物語にしたものとも言われています。また昭和42年8月28日に起きた羽越大水害では、多くの犠牲者を出し、50年以上経過した今でも村民たちに語り継がれています。

このようなことから当初は、8月28日をまつりの実施日と決め、「大里峠」と「水害供養」テーマにまつりを行ってきました。

大蛇伝説「大里峠」

禁断の蛇の味噌漬を食べた若い人妻（おりの）が、蛇に化身され、やがて大蛇に成長し、自分のすむ場所をつくるため、荒川をせき止めて関川村を大潮にする計画をたてる。

しかし、琵琶法師によって命とひきかえに情報は事前に伝えられ、大蛇は村人によって退治されてしまうという物語である。

大里峠は、山形県へと通じる街道にある峠の一つで、この峠が伝説の舞台。その名のとおり幾曲がりもある険しい山道になっている。

ラジオやテレビがなかったころ、地域の子供たちは赤々と燃える炉端で、またこたつやふとんのなかで、おばあちゃんやおじいちゃんから峠の昔話を聞き、恐怖のなかにも無限の想像力をかき立てられ、まだ見ぬ大里峠に夢をはせたものだ。

大蛇パレード

長さ82.8m、重さ2tの竹とワラでつくった大蛇を担ぎ練り歩く、ユニークで勇壮なまつりです。

大蛇は54の胴体と頭部で構成されています。54は関川村の集落数と同じ数で、各集落が胴体を制作したものです。ぜひ、お近くでウロコの模様の違いなど見比べてみてください。

パレード後半になると大蛇も勢いを増します。見物される際は、うねる大蛇は非常に危険ですので、十分距離を保ってご覧ください。

1988年(昭63)	8月	第1回目の開催
1988年(昭63)	8月	日本イベント大賞奨励賞受賞
1989年(平元)	10月	ふるさと東京まつりに参加(東京都立川市)
2001年(平13)	6月	「竹とワラで作った世界一長い蛇」としてギネス認定
2003年(平15)	10月	さいたま市民まつりに参加 さいたまスーパーアリーナでパレード
2004年(平16)	4月	第8回ふるさとイベント大賞部門賞受賞
2006年(平18)	11月	新潟日報 文化賞受賞(社会活動部門・団体)
2012年(平24)	5月	ふくしまフェスティバルin会津に参加
2013年(平25)	10月	The MATSURIサミット in 関川村
2016年(平28)	12月	国土交通省手づくり郷土賞受賞(一般部門)
2020年(令2)	~2022年(令4)	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため延期
2023年(令5)	8月	4年ぶりに開催
2024年(令6)	9月	NIPPON防災資産認定
	10月	サントリー地域文化賞受賞
2025年(令7)	8月	10代目の大蛇に交代

大蛇パレード コースマップ

※無人航空機を多数の人が集まる催しで飛行させようとする場合は、あらかじめ国土交通大臣の許可を受ける必要があります。
※時間は状況により変わる場合があります。
※役場庁舎は一般開放しません。

旧米沢街道が、平成19年3月、美しい日本の歴史的風土100選に選定されました。平成20年12月、日本風景街道(国土交通省)に登録されました。

